

氏名	河 原 徹
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 141 号
学位授与の日付	昭和40年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	<b>腎性高血圧症に関する研究</b> 第1編 実験的研究 第2編 臨床的研究
論文審査委員	教授 砂田輝武  教授 田中早苗  教授 小坂淳夫

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

実験犬において偏腎性高血圧を作成後、腎股動脈吻合による血圧、腎血行動態、血清、尿中電解質、血中残余窒素、尿中アルドステロン排泄量の変動を、又合成 Angiotensin II の点滴注入による上記諸検査及び臨床的に腎性高血圧症に対し腎摘出術、腎動脈移植による効果、並びに本態性、悪性高血圧症、内分泌性高血圧症に対しても上記諸検査、更に腎摘出例の1例に組織学的検索を行ない、腎性高血圧における昇圧因子及びアルドステロン分泌刺激因子は Renin-Angiotensin II 系と考える。

岡山医学会雑誌 77巻3号 昭和40年3月掲載

## 論文審査の結果の要旨

河原徹提出の「腎性高血圧症に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

近年従来慢然と本態性高血圧とされていたものの中に外科的に治療する外科的高血圧症とくに腎性高血圧症のかなり存在することが注目されている。そこで著者は腎性高血圧における昇圧因子およびアルドステロンの分泌刺激因子解明のため実験的に Goldbatt 犬について腎血管再建術を行い、その前後の腎機能および尿中アルドステロン排泄量を検査し、同時に臨床例についても同様な検索を行った。その成績を述べると、まず実験的に腎動脈狭窄作成により高血圧が発現し同時に尿中アルドステロン量が上昇するが、これに腎血管再建による腎血流改善をはかると血圧は回復し尿中アルドステロン量は減少した。正常犬に Angiotensin II の点滴静注を行う場合もこれと同様な成績が与えられた。つぎに臨床例でも腎動脈狭窄による高血圧例に腎動脈移植により、腎実質疾患による高血圧例に腎摘出により血圧の回復と同時に尿中アルドステロン量の減少をみとめた。高度の腎障害を伴った悪性高血圧症では尿中アルドステロン量の上昇を示した。

摘出腎の組織学的検査で Juxtaglomerular cell の増殖を認めた。以上の実験並びに臨床の研究成績より腎性高血圧症における昇圧因子およびアルドステロン分泌刺激因子は Renin-Angiotensin II 型と考えられると結論した。

以上の通り本論文は新しい知見に富み学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。